

当社グループ会社のジェネティックラボが
「子宮頸がん検診ガイドライン 2018 年版」 公開フォーラムに参加しました

当社グループ会社の株式会社ジェネティックラボ（以下、ジェネティックラボ）は、2018年11月22日（木）国立がんセンター（東京都中央区）が開催しました「子宮頸がん^{*1}検診ガイドライン 2018 年版」公開フォーラムに参加致しましたのでご報告いたします。

当該公開フォーラムは、国立がんセンター社会と健康研究センター検診研究部が国内外の科学的根拠に基づき、『有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン 2018 年度版』ドラフトを作成し、公表に先立ち、本ガイドラインに関する意見の集約を目的に開催されたものです。

~~~~~

子宮頸がん検診ガイドライン 2018 年度版 公開フォーラム

日 時：2018年11月22日（木）13：00～16：00

場 所：国立がん研究センター 新研究棟

~~~~~

この度の本ガイドラインは、「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン」2009年度版公開から9年経過し、子宮頸がん検診に関する最新の適正な情報を提供するため更新されたもので、HPV^{*2}検査を子宮頸がん検診のなかに取り込むための世界的な動きに呼応するものです。本ガイドラインにおいては、HPV検査（単独もしくは細胞診との併用）の「推奨グレード」を現在一般的に行われている検査（細胞診検査）と同等のグレード（行政のがん検診でも採用できるグレード）に引き上げる方向性をドラフトとして示されています。

公開フォーラムにおいては、検討の経緯等が説明された後、フロア参加者も交えた闊達な質疑応答等が行われました。子宮頸がん検診及びHPV検査に関する関心の高さが示される共に、我が国においても諸外国同様にHPV検査が急速に普及していくことが期待されました。

ジェネティックラボは、HPV検査のパイオニアとして約15年にわたり同検査の提供及び普及活動に取り組んでおり、引き続き子宮頸がんの撲滅に貢献してまいります。

◆当社グループ関連サービス：

- ・子宮頸がんにおける液状細胞診とHPV核酸検出検査（簡易ジェノタイプ判定）
- ・自己採取HPV検査サービス

◆ご参考

※1 子宮頸がん

子宮の入口の子宮頸部に発生するがんで、その多くに HPV の感染が関連することが報告されています。子宮頸がんの罹患数は年間約 10,000 人、死亡数は年間約 2,900 人（地域がん登録全国推計値 2012 年 上皮内がんを除く）です。定期的な子宮頸がん検診は非常に有効で、進行がんを防ぎ死亡を減らす効果が証明されています。

※2 HPV

ヒトパピローマウイルス（HumanPapillomaVirus）の略で、子宮頸がんの原因とされるウイルスです。HPV は、主に性交渉によって感染し、性交渉経験がある約 80%の女性が 50 歳までに一度は感染するといわれていますが、多くの場合、感染してもウイルスが自然に排除されます。HPV が排除されず感染が続く（数年～十数年）と、一部に子宮頸がん前がん病変や子宮頸がんが発生すると考えられています。

以上